

事業実績報告書

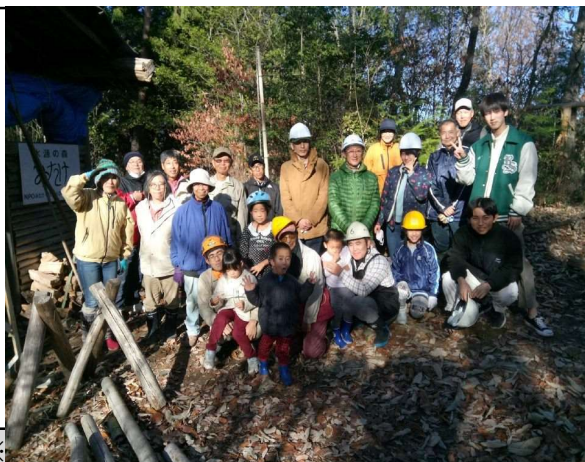
様式 2
(2022年度)

※この報告書は、なごや環境大学のウェブサイト上に記録として掲載されます。

講座番号	B-51	講座名	木曽川がもたらす生物多様性の恵みに感謝し、水源の森で学び遊ぶ
記載日	2023/2/15	団体名・企業名	NPO法人「みたけ・500万人の木曽川水トラスト」

〈講座全体の概要〉(300字程度)

木曽川水トラストの森は岐阜県御嵩町にある。巨大産廃処分場計画に関する住民投票で処分場を拒否した御嵩町民に感謝して創設されて20余年を経た。木曽川の恵みで繁栄する名古屋をはじめとする下流域都市圏市民に、上流に感謝するまなざしを持ってもらうことを企図して本講座を行った。座学に始まり、東海地方に特徴的な落葉性広葉樹林の観察、炭焼き、竹の除伐や簡単な竹細工体験、焼きあがった炭を使ってさんまを焼いて食べる、ヒノキなどの針葉樹の間伐や枝打ちの見学、古民家での餅つきなどを通じて、木曽川上流域中山間地帯の里山の自然と暮らしを学んでもらうことが出来た。子供に里山体験、炭焼き、薪割、餅つきをさせたかったという子連れのファミリーの参加が多かった。12月に3名の高校生の参加があった。学校からボランティア体験をする宿題が出されたためということであったが、楽しそうに行動していた。



※

11月12日、トラストの森で集合写真、炭焼きの煙が写り込んでいる

12月10日、トラストの森で集合写真、高校生3名参加（野球部員など体育系）

〈企画・運営者の声(感想)〉(350字程度)

今年は台風や大雪もなく天候条件としては順調であった。しかし、コロナ禍の影響はやはり避けがたく、参加者数が伸び悩んだ。申し込みをしたにもかかわらず全く参加しなかった方もいた。さらに、昨年と同様に4回通しの参加者が1家族のみで、1回だけの参加者も多かった。昨年も同じ反省をしたが、「通し参加が望ましい」という一文を加えないでしまった。小学生未満の子どもの参加が多かったが、中学生が保母さん役で頑張ってくれた。子供たち同士のつながり方も良かった。第1回の座学で、当NPO法人の成り立ちの背景となった産業廃棄物処分場計画をめぐる御嵩町の歴史、木曽川上下流間の不公平、下流域都市圏の責任などについて知ってもらうという企画は参加者には好評だったが、より多くの方々に聴いてほしかった。

〈受講者の声(実感した反応及びアンケートより)〉(3~5点、計350字程度)

大人も子供も、薪割、火おこし、笹刈り、竹林の除伐と箸づくりなど、素朴な山仕事体験に感動したという声が多かった。また、当法人のスタッフの多様性、参加された皆さんの多様性が、お互いに交差して勉強になった、楽しかったという感想となって寄せられた。トラストの森では、夏でも必ず火を起こして、芋を焼いたり、魚を焼いたりして食べるが、皆さん、とてもうれしそうであった。

1回目の座学以外にも、折に触れて木曽川の水の恩恵にあずかっている名古屋市など下流域都市圏住民は、木曽川および上流域住民への感謝の気持ちを持たなければならないという話をしたが、素直に聞いていただいたし、共感の声も聞いた。子どもたちが楽しそうに飛び回り、それを見る大人も笑顔になっていた。